



はじめに

OUCCでは毎年、コンピュータに関する各種講習会を行っています。ここでは、その中のひとつである「DTM講習会」の内容説明と、講習会を受ける方に是非知っておいてもらいたい事を書いていきたいと思います。

「DTM」とは？

知らない方もいるかもしれないので念のため説明。DTMとは、「DeskTop Music」の略称で、その名の通りパソコンで音楽を作ってみようってな意味の言葉です。映画やゲームなどのBGMを自分で再現する、いわゆる「耳コピ」もDTMの一種だと言えるでしょう。

講習会について

DTM講習会は、全くの初心者がシーケンスソフトを用いて、とりあえず曲が打ち込めるようになるまでを目的としています。ただし、音楽を扱っているものである以上、何よりも作曲者のセンスが大きく関わってきます。この講習会は、あくまでソフトの基本操作を覚えるためのものであることを知っておいて下さい。

MIDIと音源

それでは、パソコンから音が鳴る概念を少し説明します。打ち込んだ音楽のデータは、MIDIという形式で保存されます。これは、音の「高さ」「長さ」「大きさ」「音色」「効果」がひとつひとつの音ごとに記録された形式で、ファイルサイズがオーディオデータに比べて極めて小さいという利点があります。

MIDIデータ単体では音を鳴らすことが出来ませんが、これを「音源」に通ずることによって音に変換し、スピーカーから出力されます。

音源には、大きく分けて外部音源をソフトウェア音源があります。その名の通り、前者はパソコンの外にケーブルでつなぐ音源、後者はプログラムによってデータの変換を行うソフトウェアのことを指しますが、その役割は全く同じだと言って良いでしょう。外部音源は決して安価なものではありませんが、音質はソフトウェア音源を圧倒的に上回ります。また、外部・ソフトウェアに関わらず、音源の種類によって音の聞こえ方が大きく異なってきます。他の音源では自分の意図したように聞こえない場合がありますので、注意しましょう。

データ入力の方法

データ入力には、シーケンスソフトを使用します。その種類によって入力方法は様々ですが、ここではよく用いられる方法をいくつか紹介します。

- ・リアルタイム入力

MIDIキーボードを接続し、直接弾いて入力する方法。臨場感が表現しやすく、何よりも手っ取り早い。

- ・譜面入力

五線譜の上にマウスで音符を並べていく方法。視覚的に音楽を捉えやすい。

- ・ピアノロール入力

縦軸を音程、横軸を音の長さとしてグラフ表示し、マウスで入力する方法。譜面入力よりもさらにグラフィカル。

- ・数値入力

音の強さ・長さ、音を出すタイミングなどを数字で指定する方法。最もわかりにくい方法だが、慣れればこれが一番早いという話も。

なお、DTM講習会では、「Cakewalk Home Studio」というシーケンスソフトを使用し、ピアノロール入力を中心に行いたいと思います。

最後に

とりあえず簡単に説明してきましたが、まだまだ覚えるべきことは多く、と

てもこの紙面で説明しきれるものではありません。しかし一度覚えてしまえば、DTM自体は決して難しいものではないと思います。本当に大変なのはさらにもう少し先、「自分の才能の限界」とぶつかった時でしょう。そこで挫折してしまった私が言うのもなんですが、このDTM講座がそこへ到達するため、あるいは超えるための第一歩となれば幸いです。

文責：海藤竜矢(knatt)